

新緑の香嵐渓

香嵐渓のもみじは、香積寺十一世の三栄和尚が、寛永11年（1634）に植えたのが始まりといわれています。

三栄和尚は、美しい自然を、より美しくとの願いを込めて、巴川ぞいの参道から香積寺境内にかけて、楓杉などを、般若心経一巻を誦すごとに、一本一本植えていったといわれております。

また、飯盛山中にあるもみじは、大正の終わりから昭和のはじめにかけて、森林公园を作るために、青年団、婦人会などの奉仕作業で植えられました。

現在香嵐渓には11種類の楓があるといわれており、イロハカエデ、ナマモミジ、ウラゲエンコウカエデ、オオモミジ、コハウチワカエデなどが多く楓の葉をひとつひとつ見比べて歩くのも楽しいですよ。

東海一の紅葉と称されます香嵐渓も、今は緑一色の世界です。待月橋の赤い欄干で紅葉を偲んで下さい。

眩しいくらいの新緑の香嵐渓は木陰で涼む人や、川遊びをする人で賑わっていることと思います。

三州足助屋敷から、緑のトンネルの遊歩道を、ゆっくり、ゆっくり（足が元気でも、ゆっくりですよ）歩いて、いい空気をいっぱい吸って、昼食会場の参州楼さんへ向かいます。国道の信号気を付けてね。



香嵐渓のメッカ待月橋



香積寺の紅葉の樹木も今は新緑

参州楼さんで食事



以前はビーフシチュー、今はバイキングランチ

事故が無く到着できました。
ここ参州楼さんは、昔、園長が偶然に発見したお店です。

当時は洋食屋さんで、食べたビーフシチューは絶品でした。
どうしても、もう一度食べたくて入りましたら、現在は、バイキング形式でランチを提供して下さるお店になっていました。

65歳以上は、千円以下でドリンクもスイーツも自由ですのでいつもシニア（バアサマ連）で賑わっています。

ゆっくり食事して下さい。